

平成29年度 学校自己評価システムシート (県立越谷東高等学校)

目指す学校像	志を高くチャレンジ精神に満ちた生徒を育て、きめ細かく面倒見のよい指導を実践し、地域から信頼される学校
--------	--

重点目標	1 生徒の学習力を高める 2 規律ある生活態度を身につけさせる 3 目先に左右されない進路決定を実現する 4 部活動を活性化する 5 地域との連携を深める
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	10名

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	・昨年度より、さらに学校全体が落ち着いて、生徒は前向きに授業に取り組んでいる。 ・今後は、生徒の家庭学習の定着、授業内容の工夫により、生徒の多様な進路希望を実現できるように、学力をさらに向上させることが課題である。	①生徒の学力向上を目指した授業改善を行う。 ②生徒の家庭学習習慣を確立する。	①授業改善に向けた授業研修会を実施する。 ①生徒への授業アンケートの結果を各教員にフィードバックし活用して、指導方法の改善をはかる。 ①補習、小テストなどを通じて基礎学力を向上させる。 ①公開授業、授業研修や授業時間の確保、教材や課題作成の工夫等を実施して、学習環境の整備等を行う。 ②各教科と学年で連携し、家庭学習を前提とした授業を展開し、学習習慣を身につけさせる。 ②生徒の卒業後のイメージを持たせ、学習意欲の向上を図る。	①生徒アンケート、授業アンケートにて、授業満足度が昨年度の数値より増加したか。 ②授業アンケートにて、予習・復習をしている生徒が昨年の数値より増加したか。	生徒の学力向上のため、6月に授業公開週間と高校教育指導課訪問・教職員研修会(アクティブラーニング、新学習指導要領についての研修)を実施した。10月には家庭学習への取り組みについて先進校訪問(県立学校3校、都立高校1校、県内私立学校1校)を実施して、本校で実現できるものを検討した。 また、授業カウント等を行い、学校行事に関連する日程に応じて授業確保し、学力の向上に努めた。 生徒アンケートでは、授業満足度は85.5%の生徒がプラスの評価で昨年より微増であった。授業の予習、復習をしている生徒は、約30%の生徒が毎日ではないにしろ予習・復習をしており、昨年度より2.2%の増加であった。	B
2	・ほとんどの生徒は高校生としての自覚を持ち、学校生活を送っている。 ・今年度も、指導体制の維持をし、さらに社会人としてのマナーを身につけさせることが課題である。	①基本的な生活習慣の確立を目的とした指導を継続する。 ②社会性を身につけさせるために、挨拶や言葉遣い等の指導を行う	①分掌と学年が連携し、学校全体の統一した指導や家庭との連携を深め、基本的な生活習慣の指導を継続する。 ①保健室を利用する生徒への健康管理指導を適切に行う。 ②時間を守らせること、挨拶や言葉遣い、服装の指導をとおし社会性の向上を目指す。	①職員の共通理解が図られ、実施できたか。 ①遅刻率、事故発生件数は昨年度より減少し、皆勤者が増えたか。 ①生徒の健康状態を把握し、適切な指導を行えたか。 ②挨拶、言葉遣い、服装の指導を継続的に実施できたか。	ここ近年本校では落ち着いた学習環境が整備されている。今年度も学習環境の維持への取り組みがなされた。 身だしなみ指導を年間5回実施した。全職員が共通理解の下で指導にあたる事が出来た。また、いじめに関するアンケートを毎学期実施し、今年度もいじめ件数は0であった。 遅刻に関しては全校平均で1.3%程度と昨年と比較しても減少している。	A
3	・生徒の進路先は大学、短大、専門学校、公務員、一般企業とそれぞれ希望者があり、多岐にわたっている。 ・すべての生徒の進路先に対して計画的・組織的な指導体制を確立し、生徒一人一人の進路希望に対応できるようきめ細かな進路指導の充実と指導体制の確立が課題である。	・継続的組織的な進路指導を遂行し、進路意識を高めた自己理解に基づく生徒一人一人の適切な進路実現する。	・総学・LHRの時間を有効活用して、3年間を見通した計画的・組織的な進路指導を展開する。 ・学期ごとに開講講座を開講するなど、補習を計画的に推進する。 ・各学年と連携し、進路先や希望校を早期に自己決定できるようにする。 ・各種説明会に参加し、最新の進路情報を把握する。また、企業訪問を積極的に行い、企業との連携を深める。	・大学短大の現役進学者は昨年度より増加したか。 ・民間企業への就職希望者の正規採用数は増加したか。 ・企業訪問を実施したか。 ・補習講座の充実と参加生徒は増加したか。	分掌会議及び学年間の協議・連絡が奏功し、円滑に実施され、生徒の進路意識が向上した。 『進路のしおり』は面談などにおいて有効に活用された。 『進路だより』は初めて分掌統一版を発行した。 『進路研究室』の利用状況は前年度並み。進路資料は適宜掲示・配布し、有効に活用された希望進路への合格はほぼ果たすことができた。正規採用就職者も増加した。	A
4	・各部活動の活動内容が徐々に向上してきている。部活動の加入率を高め、より一層の活性化をする必要がある。	・部活動の参加率を上げ、活動内容をおし生徒に達成感や充実感を与える。	・大会への参加や文化祭や体育祭などで活躍できる場面を増やし、部員のやる気を引き出す。 ・中学校や他校との積極的な交流により、生徒への積極的な活動を促進する。	・部活動の加入率が増加したか。 ・生徒アンケートにて部活動に積極的に参加している生徒の割合が昨年度より増加したか。	平成29年度も例年のおおりに、大会への参加や学校行事を活発に行うことができた。部活動加入率は87.1%であり、近年高い水準を保っている。生徒アンケートにおいても、概ね昨年度と同様に約80%の生徒が、部活動、学校行事に積極的に参加したと回答している。	B
5	・本校の教育活動に対する理解を図るため、学校内外に情報発信をして、地域や保護者との連携を継続する必要がある。	・保護者や地域に学校情報を発信し、本校の教育活動の理解を得る。	・ホームページの更新をタイムリーに行い、常に新しい情報を発信することにより、本校への関心を喚起する。 ・PTA・後援会活動をさらに活発化し、保護者との絆を深める。中学校訪問や上級学校訪問の受け入れを、広い地域を対象に実施し、本校のPRを行う。 ・委員会を中心に、学校説明会を充実させる。	・ホームページの更新回数やアクセス数は昨年度より増加したか。 ・PTA理事会、PTA行事の参加人数は昨年度より増加したか。 ・中学校訪問や上級学校訪問の受け入れた学校数は昨年度より増加したか。	学校内外への情報発信を積極的に行った。 ホームページのアクセス数は22万件と非常に多くなった。特に、校長日記や各部活動の記事が充実していた。PTA・後援会活動については、総会や理事会の参加人数は昨年度とほぼ同様であった。 4回の学校説明会では、延べ812組(昨年759組)の参加があり、各部活動にも多くの中学生に参加・見学してもらった。 上級学校訪問は、昨年度より3校増加した。	A

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成30年 2月23日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>・生徒の学習に対するモチベーションをいかに上げるかが課題だと思う。越谷東高校の生徒は近年良い方向に変わってきた。 ・取り組み内容を聞き、学力向上のための教員の思いが伝わってくる、ぜひ継続してほしい。 ・授業研究は継続することが大切である。中学校では、小中の異校種研修を実施している。中高の異校種研修を行ったこともあるので、是非とも実施してほしい。</p> <p>・入試の倍率が倍率が上がったのは、基本的な生活習慣を身につけさせる指導をしているからだと思う。生徒への基本的な生活習慣を身につけさせる指導は継続することが大切と思うので、継続してほしい。 ・生徒は制服の着こなしもちゃんとしてきた、気になるのは自転車の並列走行、学校から離れたところで多く見られる。周囲の判断で高校を決める中学生が多いのでますます努力してほしい。</p> <p>・保護者としては、進路実績が一番興味がある。生徒が納得して、自立して、自主的に進路決定をしていくことが理想であると思う。そのためには、統計的な結果に頼りすぎずに指導してほしい。 ・進路は早いうちに方向性を出し、早めに目標へのスタートさせてほしい。</p> <p>・「部活動の制約の指導はあるのか」の問いに対し、本県でも顧問として週休日のどちらかを休日とし、平常時2時間以内の練習とすることとしている。本校においても、時間等の調整を踏まえ、概ね原則に従って活動している</p> <p>・校長日記をはじめ、HPの更新が活発になっているようである。学校での生活内容が知ることができる。今後とも継続してほしい。</p>	